

(3) 2012年(平成24年)10月25日(木曜日)

運輸業界の健康管理で
事故防止を提案するNP
O法人ヘルスケアネット
ワーク(OCHIS)、理
事長・武田裕大阪大学名
誉教授)は18日、大阪市

OCHIS

北区の大阪大学中之島セ
ンターで第7回OCHIS
Sセミナーを開催した
(写真)。今回のテーマ
は高速ツアーバスの事故
を踏まえ居眠り運転に焦

睡眠不足での運転は 飲酒運転と同じ状態

高速ツアーバス事故踏まえセミナー

点を当て、「どっつしてい
ますか? 居眠り運転対
策」とし、行政をはじめ
トラック、バス、タクシ
ーの事業者、医療関係者
ら80人余りが出席した。
この中で「居眠りを取
り巻く生理的メカニズム
(眠気のしくみ)」をテ
ーマに講演した南大阪睡
眠医療センターの渥美正
彦院長は、現代人の睡眠
不足を指摘し、生体リス
ムによる眠気の周期を説
明。さらに睡眠をとった

ことを示した。
この睡眠不足や不眠で
の業務の場合、作業能力



つもりでも十分に眠って
いないことも眠気を誘う

が極度に落ちることや、
起きている時間が15時間
で作業は酒気帯び運転、
18時間で飲酒運転と同じ
状況になることを指摘。
このため午前零時から6
時までの夜勤での事故が
多発していることを説明
した。

眠ることを強く勧めた。
運輸業界からは、大阪
センター運輸整備の峯森
吉和顧問が居眠り運転を
防止する運行管理のあり
方を説明。特に対面での
点呼で運転者の状況を細
かく把握して適切な指示
が重要と説いた。
OCHISの作本貞子
理事は、健康診断の結果
の活用を促し、健診結果
を個人情報として活用せ
ず健康管理を怠ることを
戒めた。